

10.2. 欠陥情報の記録

欠陥情報の記録は、欠陥を検出した直後に**インシデントレポート**へ記入します。

欠陥を検出した直後に記入する理由は、インシデントレポートへの記入漏れによる欠陥の流出を防ぐためです。

また、欠陥情報をリアルタイムで記述することで、プロジェクトリーダーは現状の欠陥発生件数を正確に把握することが出来、プロジェクト運営に活用可能となります。

インシデントレポートは、以下の項目を記入します。

欠陥番号	欠陥の管理を行うために、欠陥1件につき欠陥番号を付けます
検出者	欠陥の検出者の氏名を記入します
発生日	欠陥を検出した日付を記入します
再現性	他の作業者が欠陥を検出したテストを行った場合でも、欠陥を検出できるかを確認するために、再現性の有無を記入します
重要度	複数の欠陥が残っている場合、重要度の高い欠陥から修正するために記入します
ソースコードの版数	欠陥を再現させるために、どのソースコードの版数で欠陥を検出したのか記入します
欠陥内容	検出した欠陥について、詳しく記入します

補足説明

- 1回のテストによって複数件の欠陥を検出した場合、後に全ての欠陥が修正されていることを確認するために、欠陥1件ごとに記入します。
- インシデントレポートのサンプルはこちらを参照してください。